



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第四〇四号）

寒露

十月八日

企画展「凧の集い」

秋は風の季節でもあります。秋の訪れを告げる「秋の初風」から晩秋まで、秋の風にはしみじみとした趣があります。金風、白風、そして色なき風といった風の呼び名も魅力的です。

この秋、倭姫宮のご鎮座百周年を奉祝した企画展「凧の集い」が、おかげ横丁で開かれます。

倭姫宮のご祭神は、倭姫命。女神さまの宮が創建されて百周年を祝い、工芸職人グループ「凧九」の女性たちの作品を展示・販売します。凧九は、東海地方で活動する伝統工芸職人九人のグループで、根付、絞り染め、型紙、漆、筆、一刀彫、和紙、七宝、組紐のそれぞれの技を受け継ぎ、製作を行っています。伝統工芸というと、男性のイメージが強く、後継者の不足が心配される業種でもあります。今回は、倭姫命が天照大御神の御杖代として、お鎮まりになる地を探す旅

「倭姫命巡行」をテーマに、それぞれが作品作りに取り組みました。その際、私も倭姫命やその使命、長い巡行という旅について、皆さんに講義をしたのですが、さらさらと瞳を輝かせて聞く様子や、熱心な質問などに作品への並々ならぬ意欲を感じました。伝統工芸の世界に新たな風を吹かせている彼女たち、倭姫命にどのような想いを持ち、どんな作品に仕上がったか、とても楽しみです。きつと九人九様の風をまとっているに違いありません。

また、伊勢の地で和紙人形を製作している作家・阿部夫美子さんの和紙人形展示や、凧九のメンバーによる伝統工芸の体験教室も開催されます。

企画展「凧の集い」は、十月二十八日から十一月五日まで、おかげ横丁「大黒ホール」で、入場無料です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○ 第21回 神恩感謝日本太鼓祭

日本人は古来、太鼓を打つことで、暮らしの息災と豊穰を神様にお祈りしてきました。私たちは、その伝統と精神を受け継いで、太鼓のお祭りを神宮の神様に奉納します。全国各地から集まった太鼓打ち(18団体、総勢300名)が、日本人のこころのふるさと伊勢の地にて、感謝と畏敬の想い、そして日々の鍛錬で高めた技で打ち込みます。

日時／10月21日(土)・22日(日) 10:00～17:00

場所／おかげ横丁「太鼓櫓」、五十鈴川河川敷特設舞台

※雨天および諸事情にて、中止または内容が一部変更になる場合がございます。

出演／木村優一×太鼓楽団大地の会(兵庫県)、

和太鼓バンド GOCOO(東京都)、

中田勝平×生越寛康×加藤秀明(神奈川県)、

信濃国松川響岳太鼓(長野県)、枕崎火の神太鼓(鹿児島県)、

會津田島太鼓「白鼓」(福島県)、関東太鼓連 暖(関東圏)、

太鼓芸術 鼓宮舞(大阪府)、神洲太鼓(福岡県)、津・高虎太鼓(三重県)、

神恩太鼓(三重県)

● 太鼓巡行

大太鼓の山車がおはらい町通りを練り歩き、町や人を賑やかにします。

日時／10月21日(土)、22日(日) 13:00～0

場所／おはらい町通り

出演／津・高虎太鼓×神恩太鼓

● 大太鼓一人打ちコンクール

太鼓打ちが演奏を楽しむ心と、演奏の技術を競います。

上位2名の方には、22日の神宮奉納演奏に参加いただけます。

日時／10月21日(土) 予選10:30～12:00、決勝14:30～15:30

場所／五十鈴川野遊びどころ

出場／塚本 鷹(東京都)、小田 新汰(石川県)、野本 千誉(石川県)、近藤 玲未(東京都)、高尾 信都(三重県)、

今井 昂(石川県)、戸田 汐里(熊本県)、堀田 幸(熊本県)、山田 哲生(兵庫県)、西田 洸(東京都)、陳勝閑(台湾)

<出場順>

お問い合わせ/おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○ お箸の国のスローフード

「スローフード」という言葉をご存知でしょうか。地元の伝統食や調味料を見直そうというイタリアの社会運動が発祥です。それを日本でわたしたちの暮らしに落とし込むとどうなるでしょうか。ゆでてすぐに食べられる伊勢うどんはファストフード?伊勢独自の調味料って?朝熊小菜が危機?三重県で20年以上にわたり、ローカル情報誌を発行してきた編集長が、じっくりつくられる食の大切さについて語ります。

日時／10月12日(木) 13:30～15:00

講師／坂 美幸(三重の季刊誌「NAGI」編集長)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み/電話0596-20-8251

五十鈴茶屋

○ 五十鈴茶屋節気菓子

てり は
照 葉

木々の葉が黄色から朱色に変わり行く情景が伊勢路の山々でも見られるようになりました。粒餡の中に包んだ練り切りの紅葉をお楽しみ下さい。

な ごりつき
名 残 月

神域の夜空にぼっかり浮かんだ満月を、伊勢の人々は昔から愛でてきました。山芋と葛を合わせた生地で粒餡を包み、すすきの焼き印を押して名残月を表しました。

こす もす
秋 桜

白、薄紅、さんご色、コスモスが色とりどりに咲く伊勢志摩の秋。浮島の生地に葛寒天と羊羹を重ね、風の渡りに波打つコスモスの群れに似せました。